税の帰着

税は「最終的に」誰が「負担」するのか？
誰が負担するのかは，どのように決まるのか？

転嫁	帰着
直接税	間接税
従量税	従価税

（今回の講義は図表を多用しますので，別紙にしっかりとノートをとってください）

・税の支払者が税を「負担」するとは限らない。
・支払者と負担者が別の場合，税の「転嫁」が生じる

・例：完全競争市場では，生産者に課税しても，消費者に課税しても結果は同じになる。
・直感では，
　税がない場合，価格がpであったとする。
　生産者に課税する場合：課税後，消費者が支払う価格はpで，生産者が受け取る価格はp－tになる。
　消費者に課税する場合：課税後，消費者が支払う価格はp＋t，生産者が受け取る価格はpになる。
のように見えるが，市場価格が変化することを考慮する必要がある。
・経済に影響を与えるのは，消費者と生産者の直面する価格の差（税による「くさび」）である。

・厳密には，一般均衡での税の帰着を分析する必要がある。
・例：課税ベースが広範な税の場合は，経済全体に及ぶ影響を見て，評価しなければいけない。
・政府の予算制約式を考えると，ひとつの税率だけを変更することはできない。
　さまざまな政府支出＝さまざまな税からの収入
このため，
　差別的帰着：ある税率の変化とともに，他の税率が変化
　均衡予算帰着：ある税率の変化とともに，政府支出が変化
の2つの帰着の概念が区別されて用いられている。

直接税　税の支払者が税の負担者となる
間接税　税の支払者以外が税の負担者となる
従量税　課税対象の単位当たり一定額を課税（例：酒税，揮発油税）
従価税　課税対象の価格の一定割合を課税（例：消費税）

・供給が完全に非弾力的か，需要が完全に弾力的な場合，税は生産者が負担する。
・供給が完全に弾力的か，需要が完全に非弾力的な場合，税は消費者が負担する。

D　需要，S　供給
p　生産者の受け取る価格
t　税率（従量税）
ε 弾力性

$$D(p+t)=S(p)$$

$$\frac{dD}{dp}(dp+dt)=\frac{dS}{dp}dp$$

$$\frac{dp}{dt}=\frac{dD/dp}{dS/dp-dD/dp}=\frac{\varepsilon_D}{\varepsilon_S-\varepsilon_D}$$

・供給の弾力性は生産設備が調整される時間に依存する。長期供給曲線は短期供給曲線よりも弾力的になる。規模に関する収穫一定のもとでは，長期供給曲線は水平になる。
・消費税は，供給者から需要者への税の転嫁が起こることを予定している。

・社会保険料についても，同じ議論ができる。社会保険料を雇い主が支払っても，労働者が支払っても，結果は同じになる。
・厚生年金・政管健保では，保険料を労使折半。組合健保では労使負担で，雇い主の負担割合が高い。
・国保では，保険料の5割の公費負担がある。被用者保険の雇い主負担がないことが根拠とされることがあるが，経済学的合理性がない。

・社会保険料によって，賃金がどのように変化するかは，保険料負担と受益の対応程度に依存する。
・負担に等しい受益がある場合には，税引き前賃金は変化しない。負担に等しい受益がない場合には，税引き前賃金が上昇し，税引き後賃金が下落する。